

昨 年末から今年にかけて、業務用パソコンの入れ替えを行いました。OSがWindows10から11に代わりましたが、思ったほど使用感は変わらない気がします。

ただ、パソコンの移行にともない、新しいパソコンの設定、古いパソコンからのデータ移行が面倒でした。一通り設定を終えてやっと仕事ができると思ったら、Webのブックマークや辞書の単語登録の移行を忘れたため仕事がまったく進みませんでした。そのほかにも使いやすくするためにカスタマイズしていた設定があったのでやり直し、リモートワークの設定ができていたかの確認などで、数日かかってしまいました。

自分が使いやすいように設定を変えてしまうと、こういうときに困ります。今回は元のパソコンに戻って設定を確認できたのですが、バックアップができていない状態で初期化していたらもっと困っただろうと思います。使いやすくすることはいいことですが、便利に慣れて当たり前になってしまうと、いつ何を変更したかを忘れてしまうようです。設定を変えたらどこをどのように変えたかをきちんと記録しておくことが必要だと思いました。

そういったわけで新しいパソコンに慣れるまでは大変でしたが慣れてくるとやはり新しいマシンで作業するのはうれしいものです。不要なものはこの際消去しようとしたのですが、あれこれ迷って結局ほとんど移行しました。時間をみつけて少しずつ整理しようと思います。(M.K)

あ のイーロン・マスク氏が今年1月29日に、自身が設立したベンチャー企業・ニューラルリンクにて、脳埋め込みチップの臨床試験を開始したと発表しました。それによると、両手足が麻痺した患者の脳にチップを移植することで、念じただけでPCなどの機器を動かせるようになるとのこと。

こうした脳と機械をつなぐ機器のことをBrain-machine Interface : BMIと言います。埋め込みそのものの危険性や身体的負担、倫理的問題を抱えてはいますが、四肢不随患者からすれば希望の光でしょう。

中国でも、脳の電気活動により空気圧グローブを動かす、四肢麻痺の患者が自分1人で水を飲むことができたとの発表もあるようです。

まさにSFの世界そのもの。それだけにハッキングされるのでは、という不安も湧いてきます。

同じ脳でも人によって神経伝達回路は千差万別。素人考えですが、患者1人ひとりに合わせてチップを開発し、埋め込む必要があるのではないかと思います。

人間の脳は面倒臭がりやで、少しでも楽できるなら楽な方を選ぶ性質がありますが、埋め込まれたチップに従うとこの作業が簡単にできるということ。脳が学習すると、どんどん勝手に神経回路をつないでいってしまい、それによって、その人らしさが変化してしまうのではないかと不安になります。

脳へのチップ埋め込みは、現時点では医療目的のみとし、SF好きな興味本位の人たちまでは移植しない方がいいのではと思ってしまいます。(Y.H)

こんな時が危ない!

- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知していて、そこへ行った時

Raisers第72巻第2号(通巻第765号) 2024年3月10日発行

■編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-1 如水会ビルディング6階

Tel. (03) 3288-0608 Fax (03) 3288-0615

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)